

農林水産業生産指数の動き

県統計課農林統計係

この農林水産業生産指数は本県の農林水産業の生産量の年次別動きについて、昭和40年の生産量を基準とし、昭和40年から同45年までの6年間の生産量を指数化し、時系列に生産の動向を明らかにしたものであります。

1. 農林水産業総合生産指数

農林水産業の総合指数は昭和42年をピークに下向きを示し、昭和44年までの間に6.5ポイント減少したが、昭和45年には対前年比2.1%の増加がみられ、4.4ポイントの減少となった。

総生産量に占める各部門別割合は、農業90.9%、林業5.7%、水産業3.4%で本県の農林水産業は農業部門の動向によつて、大きく左右されている。

農業部門生産は、対前年比によれば、昭和43年は1.1%、44年は4.8%減少を示したが、昭和45年には2.0%の増加がみられ、昭和42年から45年の減少は4.3ポイントとなった。

林業部門生産は需要の増大にもかかわらず、昭和40年から減少の傾向にあり、昭和40年から45年の減少は21.8ポイントになる。

水産業部門生産は、起伏のはげしい増減を示しながら増加の傾向で推移しており、昭和40年から45年の増加は24.2ポイントである。

2. 農業総合

農業総合指数は、ウエイトの高い耕種作物の増減により、農業総合指数も増減を示している。昭和42年から45年をみると、耕種の減少にともない農業総合指数も4.3ポイントの減少を示した。

農業総合の部門別割合は、耕種72.0%、養蚕1.6%、畜産26.4%になつている。

耕種生産は、各年の天候により増減を示す傾向が強く、米の生産調整とか、稲の発育期の冷害も指数の下降に強い影響をあたえている。

養蚕は、昭和40年から安定した上向きを示し、基準時にくらべて昭和45年は27.6ポイントの増加を示した。

畜産は、基準時にくらべて昭和45年は16.3ポイントの増加を示した。

(1) 耕種部門

耕種作物生産量のうち、部門別割合は、米が48.6%、野菜が17.5%、麦が11.9%、工芸作物が8.9%、以下いも類、豆類、果実の順になり、米の占める割合は非常に大きい。

ア 米

米の生産量は、基準時にくらべて昭和45年は7.9ポイントの増加を示しているが、米の生産調整とか、稲の発育期に冷害にあい、44年から減少がみられている。

イ 麦類

麦類の生産は年々減少の一途をたどり、基準時から昭和45年をみると37.7ポイントの減少を示している。

これは、麦の生産者価格の上昇率の鈍化が最大の原因であり、特に、45年は天候による被害が多かつたためと思われる。

ウ 豆類

基準時にくらべ昭和45年の豆類生産量は12.7ポイントの減少を示している。

種類別にみると、まず、らつかせいは、基準時にくらべ昭和45年には11.8ポイントの減少を示している。しかし、44年からやや増加をみた。このおもな原因は、マルチング栽培によるものと思われる。

だいず（実）をみると、昭和38年のだいずの自由化にともない国内産だいず価格の低下をきたしたのが原因で基準時にくらべ昭和45年には23.7ポイントの減少を示している。

エ いも類

基準時にくらべ昭和45年のいも類の生産量は59.5ポイントの減少を示している。これは生産地の加工用かんしよの需要減により、食用種に転換、さらに早堀りの増加と、長期間にわたる記録的干ばつによつて、いも類の発育が悪くなつたのが原因と思われる。

オ 野菜類

基準時にくらべ昭和45年の野菜類生産量は32.1ポイントの増加を示している。

基準時とくらべ生産量が増加している品目は、まくわうり、ピーマン、にんじん、とまと、すいか、結球白菜、れんこん、ごぼう、きやべつ、かぼちや、なす、いちご、だいこん、とうもろこし（未成熟）、逆に生産量が減少している品目は、さといも、きゆうり、みつば、ねぎ、ほうれんそうである。

特に、まくわうりの生産量が年々増加している原因は、需要に伴い年々作付面積が伸び必然的に生産量も伸びて、基準時にくらべ昭和45年には252.1ポイントの増加を示した。

また、れんこんの前年生産量は基準時とくらべて18.8ポイントの減少を示したが、45年では逆に基準時とくらべ56.0ポイントの増加をみた。これは、生産調整により、れんこんの作付面積の増加が原因と思われる。

カ 果実

基準時にくらべ昭和45年の果実生産量は67.1ポイントの増加を示している。

品目別にみると、くりは他の農産物にくらべ、投下労働量が少量ですむことと、粗放的経営ができるために作付面積が増加したのが原因で、基準時にくらべて昭和45年には52.7ポイントの増加を示した。

なしは、基準時にくらべて昭和45年に56.8ポイント

の増加となり、その原因は、生産数量において従来未成園率が比較的高かつたため、面積の増加率に比較して、伸びは低かつたが、最近においては、成園率の増加と、栽培技術の向上により生産量が年々増加している。

ぶどうは、宅地化、他作物への転換等により漸減の傾向をたどり、基準時にくらべ45年の生産量は28.9ポイントの減となった。

うめは、作付面積に関係なく、天候によつて増減を示している。

キ 工芸作物

昭和42年をピークに急激に減少し、基準時にくらべ13.4ポイントの減少を示している。

これは、工芸作物の中で高いウエイトをしめるたばこの生産量の減少が主な原因である。生産量が年々減少していくのは、栽培面積に専売会社の許可条件もあつて42年までは年々増加して来たが、43年以降、葉たばこの在庫過剰による減反方針と、労働力減少が加わつて基準時とくらべ45年には14.4ポイントの自然減の方向を示している。

(2) 養蚕部門

需要の増大に伴い、まゆは年々増加がみられ、これは県の事業として、県北山間地帯に稚蚕共同飼育場の建設、桑園造成のための助成等を行なつたことが主な原因で、45年は天候によつて桑の生育が前年より悪かつたためと、一部の地域に桑の干害の発生等があり、蚕児生理障害が発生しまゆの生産量は対前年比が3.8%の減少となつた。

(3) 畜産部門

基準時にくらべ昭和45年の畜産生産量は16.3ポイントの増加を示した。

個別にみると、牛乳は年々安定した伸びを示しており、基準時にくらべ昭和45年は68.2ポイントの増加となっている。

豚は、年々下向きを示していたが、昭和45年には上向きがみられ、基準時にくらべ2.5ポイントの増加となつた。

鶏卵は、昭和41、42年にはニューカツスル病の被害等により減少を示した。しかし、昭和43年、44年、45年は順調に伸び、基準時にくらべ昭和45年には6.4ポイントの増加を示した。

3. 林業総合

林産物の需要は増大しているが、林産物生産量は毎年下向きを示し、基準時にくらべ昭和45年には21.8ポイントの減少を示した。

また、この林業総合は、全国の林業総合を毎年下回りながら推移している。

林業中その生産量の割合は、素材89.7%、薪炭7.9%、林野副産物(しいたけ)2.4%の割合になつており林業総合の下向きは、素材の影響をうけている。

(1) 素材

素材の生産量のうち針葉樹は基準時にくらべ昭和45年には、22.1ポイント、広葉樹10.6ポイントの減少を示した。

これは、山林保有が生産のための保有でなく、財産的小規模保有の傾向を有する林業経営の構造的特質に起因するものである。

個別にみると、基準時にくらべ昭和45年には、すぎ22.7ポイント、ひのき11.5ポイント、あかまつ・くろまつが35.1ポイントとそれぞれ減少した。

(2) 薪炭、しいたけ

木炭、薪の生産量は、消費量の減退・生産コスト高騰等により減少し、基準時にくらべ昭和45年には木炭65.4ポイント、薪は77.5ポイントと大幅に減少した。

しいたけは、年々安定した伸びを示し、基準時にくらべ昭和45年には141.0ポイントの増加を示した。これは需要の増加により管理が比較的容易であることなど、広く栽培意欲も高まつていることが原因である。

4. 水産総合

水産業の生産は、その時の自然条件によつて大きく左右される傾向を示している。基準時にくらべ昭和45年は24.2ポイントの増加を示している。

水産漁獲量のうち、海面漁業が79.5%、内水面漁業が20.5%の割合を占めている。海面漁業の推移は水産業総合に大きな影響を及ぼしている。

海面漁業の魚類においては、本県漁業の大半を占めるさばの漁獲量によつて、推移を示している。その他の水産動物は、基準時にくらべ昭和45年には43.1ポイントの増加を示した。これは、いか、えびの2種類が増加したのが原因である。

内水面においては、年々増加の傾向にあり、基準時にくらべ昭和45年には96.6ポイントの増加を示した。これは、あゆ、こい等が増加したのが原因である。

生産指数の動き (昭和40年=100)

年次	農業総合	耕種総合	耕種							養蚕	畜産
			米	麦	豆類	いも類	野菜	果実	工芸作物		
ウエイト	10,000	7,197	3,496	859	298	468	1,262	169	645	156	2,647
昭和40年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	101.1	103.1	99.5	100.0	101.4	101.3	110.7	128.9	106.7	100.2	95.8
42	109.7	113.6	114.2	103.5	88.4	87.0	121.1	151.4	130.2	117.1	98.5
43	108.5	112.4	118.0	95.9	84.8	66.3	129.1	151.3	107.0	125.9	96.9
44	103.3	103.4	109.3	77.5	87.0	47.7	126.6	150.7	95.9	132.6	101.3
45	105.4	101.0	107.9	62.3	87.3	40.5	132.1	167.1	86.6	127.6	116.3